

基盤傾斜化と 復田作業工程

月日	作業名	作業機名・大きさ	作業時間 (h/ha)	作業人員 (人)	述べ作業 時間 (h/ha)	備 考
稲収穫後	プラウ耕	クロートラクタ レーザプラウ	2.40	1	2.40	補助者が1名必要 1/1000傾斜
プラウ耕後	レバ作業 傾斜化	クロートラクタ レーザレバ	8.55	1	8.55	補助者が1名必要
			10.95		10.95	
レバ後 冬作	小麦 施肥播種	ロータリ 耕幅2.3m				栽培管理は省略
夏作	大豆 施肥播種	ロータリ 耕幅2.3m				栽培管理は省略
大豆収穫後	耕起	トラクタ ロータリ又 はプラウ	2.70	1	2.70	補助者が1名必要
ロータリ耕後	レバ作業 水平化	クロートラクタ レーザレバ	8.33	1	8.33	補助者が1名必要
			11.03		11.03	

平均値 補助者はセッティング、レベル調整時のみ必
レバの作業速度は、重作業の平均値を用いた。

基盤傾斜化と 水平復帰作業工程 (営農用機械を利用した)

[圃場内作業]

稲藁片づけ	25a/h 1人	人力 作業精度に影響するので、焼却処理した。
プラウ耕 レーザプラウ	42a/h 1人	好天気が続き、ほ場が硬いと能率は下がる 一般にほ場は水稻後のため、湿潤傾向
基盤傾斜化 レーザレバ	12a/h 1人	土壌が乾くまで作業ができない。 測量によって傾斜(1/1000)を確認する
小麦栽培		
白大豆栽培		複数年利用の場合は、次期作は大豆となる。
耕起 レーザプラウ又はロータリ	37.0a/h 1人	大豆収穫後、冬季の乾燥時期の作業となる。
基盤水平化 レーザレバ	12.0a/h 1人	
水稻栽培		

合計
傾斜化 10.95 h/ 10a
水平復帰 11.03 h/ 10a

補足

ブロックローテーションほ場においての、転作期間(1年)内に傾斜化ほ場造成を行って
小麦・大豆の安定収量を確保するのが、基盤傾斜化の目的である。(農工研指導)
コスト面からは複数年の転作利用が好ましいが、課題を明らかにするために、単年利用で試験している。